



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第46号

発行:2010年2月15日  
発行責任者:  
特定医療法人社団 鵬友会  
事務局長 池島 守



## リハビリテーション再考・最高！

～ 市民講座・旭区訪問リハビリシンポジウムを終えて～

新中川病院 リハビリテーション科長 間野 和貴

去る平成22年2月6日に新中川病院で行われた第12回市民講座と、続く2月9日にサンハートで行われた第1回旭区訪問リハビリシンポジウムにおいて、訪問リハビリテーションの症例報告とリハビリテーションについて再考しましたので、ここでご紹介させていただきます。

新中川病院リハビリテーション科の訪問リハビリ体制ですが、セラピストに理学療法士6名、作業療法士1名、助手1名の計8名をおき、訪問地域は、横浜市旭区、瀬谷区、泉区の3区に渡り活動しています。現在の利用者数は109名（平成21年12月現在）で、21年の実績件数は、5,641件でした。市民講座やシンポジウムで報告した症例は、訪問リハビリが成功した例ではなく、敢えて上手くいかなかった症例を紹介し、なぜ上手くいかなかったのかを考え、解決策を見出すという内容にしました。そこから見てきたことは、リハビリにおける身体機能の向上に重要なこととして、本人のやる気 タイミング

訪問リハビリ以外での活動度・生活スタイルの3つが挙げられ、訪問リハビリの適応は、リハビリは魔法ではないので、身体機能の向上を永続的に追いつけることはできないが、各タイミングでの**目標設定の統一化**ができれば、あらゆる疾患・状態の方が対象となるということを再認識致しました。

ここで、改めてリハビリテーションとは？と考えてみますと、Rehabilitationの語源としては中世ラテン語のhabilis（適する）に接頭語のre（再び）が付いた合成語であり、直訳すると「再び適したものにする」となります。また、WHOの定義では「リハビリテーションとは、個人の機能的な能力および心理的能力を開発し、必要ならば、その代償機能を発達させることを目的としたプロセスであり、個人が自立して積極的に生きることを目指すものである」とあり、障害者が人間らしく生きる権利の回復、すなわち“全人的復権”となっております。

介護保険による訪問リハビリテーションは、診療報酬改定により疾患名や発症からの日数によって制限される医療保険での病院内のリハビリに比べ、人間のリハビリを受ける権利を尊重しており、本来のリハビリテーションの姿を反映していると思っております。

リハビリテーションは予防から治療まで、誰にとっても大切なものであり、もう遅いということは決してなく「今のあなたが一番若い」「今から始めることがあなたにとって一番早い」という信念で、お一人おひとりのQOLの向上を目標に、その時々々の状態に適したプログラムを提供できるよう日々学んでいきたいと思っております。リハビリテーション最高！一緒に頑張りましょう！！

“ Not only to add hours to life, but also to add life hours. ”

（あなたの命に年を加えるのではなく、あなたのその年に命を与えよう） リハビリテーションの父 ハワード・ラスク

# 第12回 市民向け医療・福祉講座 開催!

～大盛況! 120名の参加者との交流～



溢れる会場



【講師：福田千文院長】

平成22年2月6日（土）14時から新中川病院で「在宅医療支援をどう考えるか～新中川病院の取り組み～」と題した市民講座を行いました。

児玉理事長の開会挨拶のあと、新中川病院福田院長が基調講演を行い、続いて間野リハビリ科長、仁科薬局長、綿貫アイシマ看護部長が事例報告を行いました。福田院長は講演の中で、患者の“命”と“健康”にどう関わっていくか、退院したらそこで終わりではなく、患者と家族との信頼関係を構築したうえで、命を丸ごと受け止めることが病院の使命であると述べられました。



【挨拶：児玉理事長】

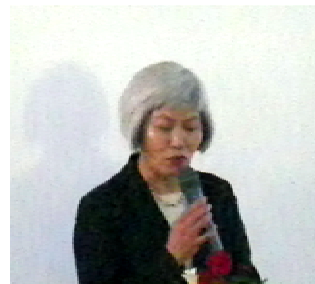


【司会：松田事務部長】



【受付】

事例報告では、訪問リハや高齢者服薬支援、アイシマの地域の施設や取り組みなどの実例を反省点を含め紹介し、2時間半を超える講演会は終了しました。



【各シンポジスト：左から、間野リハビリ科長、仁科薬局長、綿貫アイシマ看護部長】

## 職業体験 レポート

～新中川病院に希望が丘中学生を迎えて～

平成22年1月20日（水）職業体験として横浜市立希望が丘中学校2年生6名を受け入れました。職業体験とは、実際に職場へ出ることによって地域社会の一員としての自覚を高め、将来の進路に役立てることを目的とした教育活動です。

車いす乗車体験では、「意外に力が要る」、「方向転換がうまくできない」といった感想が聞かれ、血圧測定では、見慣れない計測器に悪戦苦闘しながらも、聴診器での心音の聴き方や脈の取り方など、担当看護師の説明を真剣に聞いていました。この体験を通して医療に興味を持ち、将来医療職を目指してくれたらと思っています。

